# 親園中学校道徳だより

令和5年　１２月１日　　文責：粕谷　睦子

## ◎１学年の実践「仏の銀蔵」　主題名：遵法精神・公徳心　授業者：増居

情け容赦ない借金の取り立てで、村人から怖れられた高利貸しの銀蔵は、ある日、カラスに証文をとられて 取り立てができなくなる。証文がないことを理由に村人が借金を返さないため、二十両と引き替えに証文を 取り戻そうとする。しかし、証文が返ってこないばかりでなく二十両も失い、商いができなくなった銀蔵は生活苦に陥る。しばらくすると、不思議なことに、村人達は証文がないにもかかわらず借金を返し始める。「貧しいが盗人にはなりたくねえ。」「お天道 様が見てござる。」との村人達の言葉に、銀蔵は「そうか、お天道様か。」と気付くのであった。

生徒の感想（一部抜粋）

- 罰せられなくても守っていることがたくさんあると気付いた。守る理由は常識や他の人が不快に思ってしまうからだと思った。
- ルールに書いてないことでも、相手と自分のためにも自分のルールとしてまもることが大切だとわかった。
- これからもお天道様が見てると思って生活したい。また、できて当たり前なことも増やしていきたいと思った。
- いくら相手の証拠がなかったとしても、自分から名乗り出てお金を返すことはあまりできないことだから自分でも見習っていきたいなと思った。
- 今日の授業を受け、自分は得をするが、相手は嫌な思いをするようなことをしたり、誰も見ていないからといってずるいことをするのは改めて良くないなと思った。
- 銀蔵は卑怯だったけれど、貧しい人たちとカラスのお陰で銀蔵は変われたのかなと思った。私だったら返さないので、この人たちを見習いたいと思った。
- 人が見ていなくても、悪いことは何かしらが見ているということがわかり、ますます悪いことはやってはいけないという心が身についた。

## ◎２学年の実践「マナーとルール」　主題名：遵法精神・公徳心　授業者：箱崎

東京都千代田区役所が地域の環境をよくしようと、住民と共に取り組んだ出来事について考えた。区役所は最初、住民の中にあるマナーを大切にしようとする心を向上させようと取り組んだ。しかし、改善にはつながらなかった。そこで、全国で初めての「生活環境条例」を定め、ルールを厳しくした。結果、地域は目に見えて改善していったが、一方でルールをかいくぐるようにして違反をするものは後を絶たなかった。

生徒の感想（一部抜粋）

- ルールやマナーを守るのに大切なことは「心」だと思う。
- 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」の言葉には、区民に自分から決められたことを守ってほしいという思いが込められていると思う。
- ルールやマナーを守るためには、まずはどんなルールやマナーがあるのかを知っておく必要があると思った。
- どうしても守れない場合は、ルールが必要かもしれないけれど、やってはいけないことはやらないのが当たり前という気持ちをもってほしい。
- 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」には、「みんなでマナーを守って、仲良くともに生活しよう」という思いが込められていると思う。
- ルールやマナーが守れていない時でも、お互いに注意できる勇気が大切だと思った。
- 厳しくルールで取り締まった後に、さらに厳しくするのではなくて、マナーを守ろうという気持ちが広がって地域が改善してほしいという願い。
- ルールやマナーを守るのに大切なのが「道徳心」であると思う。

## ◎３学年の実践「苦悩の決断」　主題名：きまりを超える願い　授業者：後藤亜

１９４０年７月の朝、リトアニアの日本領事館で働いていた杉原千畝はある光景に出会う。領事館に２００人を超えるユダヤ人が並んでいた。ユダヤ人は戦場から逃れるため、日本のビザの発行を求めた。もちろん、一度に多くの人へのビザ発行は許される行為ではない。一晩考えた千畝はビザを発行することに。寝る間を惜しんでビザを書き続けた。そして、結果、多くのユダヤ人を救うことになった。

生徒の感想（一部抜粋）

- ルールをなぜ守らなければならないのかを考えることは大切なことだと思った。ルールは守るものだけど、その背景にはみんなの安全を考えてできていると感じた。
- なぜ社会にルールがあるのか考えることができた。杉原さんは素晴らしい判断をしたと思います。
- 自分が責められるとしても多くの人のために行動を起こせるのがすごいと思った。
- 杉原千畝さんの生き方を参考にして、ルールの在り方を見直してみたいと思った。
- ルールをそのまま受け入れるのではなく、なぜそのルールがあるのか前提を考えることも大事だと思う。